

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料1-1

令和7年1月16日

協議会名:茅野市・原村地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
アルピコ交通(株)	メルヘン街道バス	持続可能な公共交通に向け、令和4年10月より新たな市内交通体系での運行を開始しつつ、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスやデマンド交通の乗り案内など利用促進に向けた情報発信にも取り組んだ。 さらに、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握、検討に取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標値:25人／日 達成状況:27人／日(108.0%) 実績を上回る目標値を設定したが、沿道住民への利用促進の取り組みに、観光行動の増加も相まって目標を達成できた。	利用状況や利用者意識の把握、改善に向けた検討を行い、改善に向けた取り組みを行っていく予定であるが、利用促進に向けても地域一帯で取り組み、持続可能な交通体系の検討を進展させる。
茅野バス観光(株)	穴山・原村線	茅野市と原村で地域公共交通計画策定の協議の中、2市村で連携し、令和6年4月より、運賃の見直しと日中の特急運行を開始した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標値:35人／日 達成状況:22人／日(62.9%) 通学の利便性向上により利用者の増加を狙い、実績を大きく上回る、目標地を設定したが達成することができなかった。 しかし、令和6年9月には、令和3年12月以来、最大となる月別日平均利用者数27人を記録した。	茅野市と原村を結ぶ重要な路線であり、今後も利用状況を注視しつつ、利用者アンケートの実施や住民の意見も聴取しながら必要に応じた利用者行動に合わせた利便性の向上、利用促進に取り組んでいく。
アルピコタクシー(株)	原村循環線	令和4年10月から翌年5月の間の実証運行、地域公共交通計画策定策定と並行し検討を進め、「乗合オンデマンド交通 のらざあ【原村】」の運行に際し、令和6年1月末で運行を終了した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標値:73人／日 達成状況:43人／日(58.9%) 目標値は、小中学生の通学にも利用されていた時期の実績をもとにした高い目標設定であり、小中学生の通学に特化したバスの運行を別途開始したことにより、目標値を大きく下回った。	令和6年2月より「乗合オンデマンド交通 のらざあ【原村】」の運行に移行。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月16日

協議会名:茅野市・原村地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
アルピコ交通(株)	通学・通勤バス 御狩野線	持続可能な公共交通に向け、令和4年10月からの新たな市内交通体系での運行に先立ち、令和4年4月より運行を開始し、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスやデマンド交通の乗り方案内など利用促進に向けた情報発信にも取り組んだ。 さらに、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握、検討に取り組んだ。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標値:55人／日 達成状況:52人／日(94.5%) 主な利用者が長峰中学校の生徒であることから、利用し対象者数と過去の実績より目標値を設定したが、塾や私用によりタ方の帰宅便の利用者が想定より少なく、目標を達成することができなかった。
茅野バス観光(株)	通学・通勤バス 丸山線		A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標値:34人／日 達成状況:42人／日(123.5%) 沿線地域住民やPTAとも協働で周知活動を行い、目標を大きく上回る結果となった。
茅野バス観光(株)	通学・通勤バス ピアみどり線		A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標値:53人／日 達成状況:61人／日(115.1%) 沿線地域住民やPTAとも協働で周知活動を行い、目標を大きく上回る結果となった。

今後も学生の移動手段を確保するため、地域住民と協働、学校側との継続的な協議を行いつつ運行を継続していくとともに、新入学生なども含めたバス利用の呼びかけなど、利用者増加に向けた取り組みを行っていく。

今後も学生の移動手段を確保するため、地域住民やPTAで継続的な協議を行いつつ運行を継続していくとともに、新入学生なども含めたバス利用の呼びかけなど、利用者増加に向けた取り組みを行っていく。

今後も学生の移動手段を確保するため、地域住民やPTAで継続的な協議を行いつつ運行を継続していくとともに、新入学生なども含めたバス利用の呼びかけなど、利用者増加に向けた取り組みを行っていく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月16日

協議会名:茅野市・原村地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
アルピコ交通(株)	通学・通勤バス 米沢線	持続可能な公共交通に向け、令和4年10月からの新たな市内交通体系での運行に先立ち、令和4年4月より運行を開始し、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスやデマンド交通の乗り案内など利用促進に向けた情報発信にも取り組んだ。 さらに、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握、検討に取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標値:36人／日 達成状況:56人／日(155.6%) 沿線地域住民やPTAとも協働で周知活動を行い、目標を大きく上回る結果となった。	今後も学生の移動手段を確保するため、地域住民やPTAで継続的な協議を行いつつ運行を継続していくとともに、新入学生なども含めたバス利用の呼びかけなど、利用者増加に向けた取り組みを行っていく。
アルピコ交通(株)	通学・通勤バス 泉野・玉川線	持続可能な公共交通に向け、令和4年10月からの新たな市内交通体系の中核とし運行を開始し、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスやデマンド交通の乗り案内など利用促進に向けた情報発信にも取り組んだ。 さらに、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握、検討に取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標値:25人／日 達成状況:37人／日(148.0%) 沿線地域住民やPTAとも協働で周知活動を行い、目標を大きく上回る結果となった。	今後も学生の移動手段を確保するため、地域住民やPTAで継続的な協議を行いつつ運行を継続していくとともに、新入学生なども含めたバス利用の呼びかけなど、利用者増加に向けた取り組みを行っていく。
アルピコタクシー(株) 茅野バス観光(株) 第一交通(株) 諏訪交通(株)	乗合オンデマンド交通 のらざあ 【茅野市】	持続可能な公共交通に向け、令和4年10月から新たな市内交通体系の中核とし運行を開始し、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスやデマンド交通の乗り案内など利用促進に向けた情報発信にも取り組んだ。 さらに、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握、検討に取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標値:138人／日 達成状況:165人／日(119.6%) 令和4年10月から本格運行を開始したものであり、目標値は、昨年度実績より設定したが、住民への周知活動を行い、目標を大きく上回る結果となった。	利用者アンケートにおいては、予約が取れない状況等の意見もあり、乗合率や相乗率の向上に向けた情報発信、システム改善を継続的行うとともに、運行台数の増大するなど、潜在需要への顕在化に取り組んでいく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月16日

協議会名:茅野市・原村地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
諏訪交通(株)	乗合オンデマンド交通 のらざあ 【原村】	令和4年10月から翌年5月の間の 実証運行を経て、地域公共交通 計画策定策定と並行し検討を進め 令和6年2月より運行を開始した。	A	計画どおり事業は適切に実 施された。	A 目標値:20人／日 達成状況:22人／日(110.0%) 従来のバス利用者数より目標 値を設定したが、住民への周知 活動を行い、新規利用者も取り 込み目標を上回る結果となった。	さらなる利用者の増加を目指し、 今後も継続的に利用状況の把握、 利用者意識の把握を行い、乗合率 や相乗率の向上をする使い方など の周知も行き、住民への浸透、運 行改善を図っていく。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月16日

協議会名：	茅野市・原村地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	茅野市・原村は長野県の南側、南信地方に位置し、面積は309.85km²(茅野市:266.59 km²、原村:43.26km²)、令和2年国勢調査における人口は64,080人(茅野市:56,400人、原村:7,680人)で通勤通学、医療、買い物などの日常生活において密接な関連を持った市村である。 両市村の住民の移動手段は、マイカーに大きく依存しているものの、車を運転できない方などにとっては、地域内のバス交通は欠かすことができないものであるが、近年、民間バス路線が不採算路線としての申し入れが相次いでなされた。 このため、両市村では平成22年より協働で、「安全安心意識の高まり、高齢化の進展等の中で、通学・通勤・通院・買物を中心とした住民の日常生活の移動手段を確保維持」を目指し取り組んできており、令和6年3月に策定した「茅野市・原村地域公共交通計画」に基づき、地域間幹線系統「本線(岡谷・茅野線)」に接続するフィーダー系統の維持・確保により生活交通ネットワークの構築を進めている。